

平成 19 年度酪農理解助成活動推進事業
酪農体験学習活動実践報告書（提携校用）

学校名	足立区立上沼田小学校		
所在地	足立区江北 6-10-2		
TEL	03 (3898) 1321	FAX	03 (3898) 1322
ホームページ	http://www.adachi.ne.jp/users/adkanu		e-mail kanu-ead@adachi.ne.jp
学校長名	大森 隆雄		担当教諭名 工藤 美保子
学級数	6 学級	児童数	140 名
		教職員数	14 名

学区や地域の特色

本校は、今から 37 年前に大規模集合住宅が建設されるに伴い、児童数の増加によって、近隣小学校から独立し、開校の運びとなった。集合住宅は、公団並びに都営住宅である。当時は 1200 名を超える児童数を数えたが、少子高齢化が進行するに従い、現在のように区内でも下から 2 番目の小規模校となっている。

学校に隣接して公園・野球場があり、歩道も整備されていて自然環境にも恵まれている。また、平成 20 年度からは舎人新線が開通し、「西新井大師西駅」が本校近くに開設される。

学校の特色

全校児童 140 名の小規模校である。小規模校のよさを十分に生かして、児童一人一人に丁寧な個別指導を行い、一人一人のよさを伸ばさせようと努めている。

習熟度別の少人数指導や、TT 指導に力点を置いて教科学習を進めてきたが、今年度は、知・徳・体の調和ある成長を目指し、研究実践している。体育の授業研究を主に、「食育」の学習や、「健康教育」を柱として教育活動を進めている。

食育では、栽培活動などの生産体験、食に関する出前授業、生活科や総合的な学習での食についての学習を進めている。実際に自分たちで栽培した野菜や米などを食する活動や、「お魚博物館」「ワクワクモーモースクール」などの本物の体験を通して、食に対する興味や関心を高める活動を進めている。

健康教育では、生活リズムの確立目指し、「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みを進めている。また、歯磨き指導や通年での薄着の励行、欠席 0 の取り組み等も行っている。

また、少ない人数の中で、児童同士の交流を図るために、「縦割り班活動」にも力点を置き、特別活動を中心に異年齢集団の取り組みを進めている。

テーマ（タイトル）

命の大切さー本物の牧場体験を通して

ねらい

- ・本物の牧場に行き、牧場で働く人とのふれあいを通して、働く人たちの思いや願いに気付く。
- ・牛にえさをあげたり搾乳体験をしたりする中で、動物への関心や愛着をもつ。

目次

1. はじめに
2. 活動のねらい
3. 主な活動計画
4. 実施案
5. まとめ

内容要約（概要）

1・2年生の生活科の学習で、「ワクワクモーモースクール」の活動を受け、千葉県館山市にある須藤牧場での「本物の牧場体験」活動を行った。

事前に「須藤牧場」についてHPを見て牧場の様子を学習した。また、須藤牧場の須藤陽子さんが作られた絵本「牧場のおはなし『モモコ』」「牧場のお話『いのち』」の読み聞かせを行い、児童の興味や関心を高める活動を行った。

担任の作成した「生活科体験学習のしおり」をもとに、牧場見学のねらいをはっきりもたせるとともに、集団活動のねらいをもたせるための指導を行った。そして、事前に牧場の人に聞きたい内容をはっきりさせ、質問事項をまとめさせた。

当日の牧場見学では、牧場の人から日常の生活の様子や、牛を育てる喜びや苦勞、牛の種類や牛の体の話、搾乳の仕方や牛乳の作られるまでの話を聞いた。また、実際に牛舎に行き、牛にえさをあげたり、授乳体験をしたりしながら、牧場の生活の疑似体験を行った。牧場の方からのクイズ、牧場で絞った牛乳を用いてのカッテージチーズ作り体験も行った。

体験活動終了後、生活科の時間に、活動のまとめを行った。牧場の1日の生活のまとめ、牧場の方から聞いた話のまとめ、体験活動を行っての感想等についてまとめ、発表させた。

実践事例－上沼田小学校 須藤牧場での「本物の牧場体験」活動

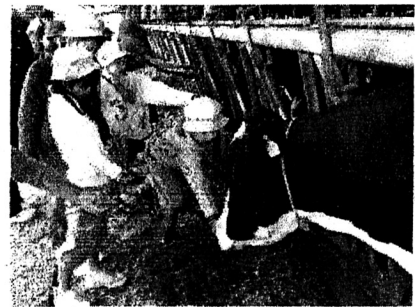
1. 活動計画

- (1) 体験の種類；牧場での体験
- (2) 教科；生活科
- (3) 時間数；事前学習 1 時間
牧場体験 4 時間
まとめの学習 1 時間 計 6 時間
- (4) 形態；校外学習

2. 活動の実際

(1) 事前学習

- ・「ワクワクモーモースクール」体験の復習
 - 仔牛とのふれあい
 - 搾乳体験
 - チーズケーキ作り
 - 搾乳から牛乳になるまで
- ・須藤牧場についての事前学習；HPでの学習
- ・「牧場のおはなし『いのち』」「牧場のおはなし『モモコ』」の読み聞かせ
- ・「しおり」に基づく事前学習
 - 体験学習のねらい
 - 集団行動のきまり



(2) 酪農体験

- ①場所；須藤牧場 千葉県館山市安東 337 番地
- ②日時；平成 19 年 11 月 26 日(月)
 - 時程 学校発 7 時 20 分 須藤牧場着 10 時 体験活動 10 時～13 時 30 分
 - 学校着 15 時 30 分
- ③学年；1 年・2 年
- ④参加人数；1 年；10 名 2 年；19 名 計 39 名
 - 引率；校長、副校長、担任 2 名、補助 1 名 計 44 名
- ⑤体験内容
 - ・えさやり体験（牛舎）
 - ・搾乳体験
 - ・哺乳体験
 - ・放牧場見学
 - ・カッテージチーズ作り体験
- ⑥活動の流れ
 - ・須藤牧場の人の話

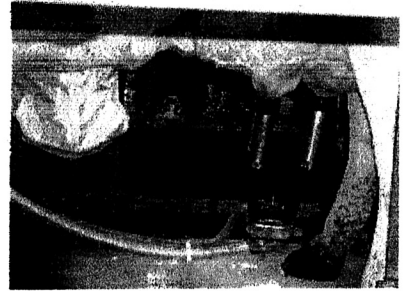


牧場の規模、飼育頭数、1日の生活等

- ・牧場見学（牛舎）
- ・牛舎でのえさやり体験活動
- ・搾乳体験

牧場の人への質問コーナー

- ・仔牛への哺乳体験
- ・放牧場見学
- ・カッテージチーズ作り体験・試食
- ・須藤牧場の人の話



⑦活動の様子

須藤牧場の方から、牧場の規模等について話を聞いた後、牛舎に行って、干し草を食べさせる体験をした。牛の鼻先に干し草を持っていてもなかなか食べてくれない。子どもたちは、飼料ではなくただの「干し草」をあげると牛が喜んで食べてくれることを発見。牛のえさを食べる様子を見て、何もあげてないのに口を動かしているのは、いったん飲み込んだえさをもう一度咀嚼していることにも気付く。

次に、雌牛から乳搾りをするようになった。牧場の方から、搾乳の仕方を学び、実際にやってみた。乳房を消毒すると、乳首が収縮するのを見て、「仔牛が飲みやすいように乳首が萎む」という説明を受け、感心していた。一人一人、搾乳しながら、乳を手のひらに受け止め、その温かさに「あったかーい」と感心していた。全員が乳搾りを終わった頃に、酪農組合のトラックが牛乳を集めに来たので説明を受けた。その後、牧場の人からクイズを出され、みんなで考え合った。「牛一頭から取れる牛乳の量はどれくらいか」「須藤牧場には何頭の牛がいるか」等に答えた後、質問コーナーに移った。

児童からは、「朝は何時に起きるのか」「嬉しいときはどんなときか」「どんな苦労があるのか」等、それまでに考えてきた質問がたくさん出された。

子どもたちが驚いたのは、搾乳を終えた雌牛が、柵から放たれると、自分で牛舎に戻っていくことだった。牧場の方の話では、須藤牧場の牛は、時間になると搾乳する場所まで独りで来て、終わるとまた戻るという。児童も頭のよさに驚いていた。

次に、雌牛を追って放牧場まで行った。広い放牧場に感激した様子だった。

牧場に戻り、カッテージチーズ作り体験を行った。暖めた牛乳に酢を入れ、かき混ぜるとカッテージチーズができるのにビックリした様子だった。できたチーズをゴボウとシラタキと一緒に煮て食べると、その食感にまたビックリ。「おいしい」と平らげていた。その後、牧場でとった牛乳を試飲。「あまーい」「牛乳なのにどうして甘いのか」など、普段口に入っている牛乳とは違った味に驚いていた。

牧場ツールの牛のからだを使って、牛の胃袋の様子、仔牛がお腹にいるときの様子、出産の様子などをせつめいしてもらい、胃袋の大きさに驚いていた。

⑧子どもたちの感想から

◇ぼくは、はじめて本物の牧場に行きました。はじめは牛のふんやおしっこのおいがくさかったけど、牛にえさをあげたり、ちちをしぼったりするうちに、においがきになくなりました。

牛のおっぱいは、とても大きくてあたたかかったです。

◇すどう牧場に行って一番ビックリしたのは、絵本のように「モモコ」がいたことでした。頭のところに「☆」の形のもようがあったのでびっくりしました。モモコに牛乳をのませると、あっというまにのんでしまいました。そのあと、ぼくの手をチュウチュウすってくるのでくすぐったかったです。すごい力ですうので、ビックリしました。

◇すどう牧場は、とっても広かったです。ほうぼく場はとっても広くて、けしきもよかったです。牛も気持ちよさそうでした。牧場の草を食べるので、牛にゆうもあまいのかなと思いました。

手のひらにちちをしぼると、とてもあたたかかったです。牧場の人が、ちちは手をすべすべにするよといったので、手をこすると本当にすべすべになったのでびっくりしました。

◇みんなですどう牧場に行ってとても楽しかったです。牛がたくさんいました。すどう牧場の牛にゆうは、ちばけんで7位になったそうです。1400のうちの7位なのですごくいいなと思いました。牛にゆうは、とてもあまくておいしかったです。

ぼくも大きくなったらぼくじょうではたらいてみたいと思いました。

◇すどう牧場には、絵本のようにたくさんのどうぶつがいました。犬やヤギやポニーや馬までいました。牧場のお話は本当だったんだなと思いました。子牛も、たくさんいました。あの子牛は、みんなお母さん牛に会えたのかなと思いました。

チーズのにもものは、とてもおいしかったです。

⑨事後学習

見学から帰ってきて、どんなことが分かったか、どんなことを思ったかを児童に感想を書かせ、発表し合った。

児童からは、上記のような感想が出された。「本物の牧場」体験は、初めての児童が多く印象深かったようだ。事前に本校に本物の牛が来る「ワクワクモーモースクール」を実施していたが、学校で体験する活動とはまたひと味違っていただい

3. 活動のまとめ

本活動のねらいである

- ・本物の牧場を見学し、牧場の人たちとふれ合う。
- ・搾乳体験や哺乳体験を通して、牛に親しみ、いのちの大切さにふれる。

- ・チーズ作りを通して、牛乳が乳製品になることを知る。

という目標は達成できたといえる。

本物の牧場体験は、都会で生活する児童にとって大変インパクトのある活動であった。それは、体験活動後に書かせた児童の感想にもよく表れている。ほとんどの児童が、新たな気づきや、感動を素直に綴っていた。生活科においては、児童が自分との関わりを深め、対象に気付くことで、そこに映し出される自分への気づきが大切にされる。牧場の方たちや乳牛との関わりの中で、それまで牛乳嫌いだった児童が、頑張って飲もうという気持ちをもってくれたり、チーズも食べようといってくれたりするなどの変化も見られるようになっていく。

今年度本校は、関東生乳協会のご厚意で、「ワクワクモーモースクール」を実施した。本物の乳牛に生まれて初めてふれることは、大きな驚きとともに感動あふれる体験であった。ふだん飲んでいる牛乳が酪農家の人たちの手で生産され、自分たちの食卓にのぼることや、母牛の子牛にあげるためのものであることを改めて知った児童たちにとって、食について考える良い機会となった。

それに続いての「本物の牧場体験」であったため、感動が薄れやしないか、二番煎じにならないかという心配もあったが、それは杞憂に終わった。学校という場での体験とは違った受け止め方を児童はしてくれたように思う。館山の豊かな自然環境の中での牧場の仕事を新鮮な気持ちで素直に受け止めてくれた。牛舎の中のたくさんの乳牛、牛の糞尿の臭い、そこで営まれる酪農を体感できたことは、体験学習ならではの教育効果といえる。

今後の活動としては、これまでの体験学習で得た経験を、知的な気づきにしていくために、乳業会社による出前授業を実施していきたいと考える。

(補足)

- ・生活科学習キットについて

「ワクワクモーモースクール」開催前に、牛の全図を掲示し、牛の大きさ、体についての学習に活用した。実際よりもスケールは小さかったが、児童の牛に対する興味・関心を高める上では大変効果的であった。児童からは、「牛がいつ来るの」「こんなに大きい」「牛の乳はこんなに大きい」という感想がたくさん出され、当日の牛との比較がしやすかった。

- ・牧場ツールについて

牧場ツールの活用では、牛の4つの胃袋の模型を用いて、その役割について学習した。児童にとって、牛の胃の反芻や第1胃の大きさは初めて知るだけに、大きな驚きもあり、また、胃の中に釘を入れて消化に役立terという話も知的な刺激を与えるに十分であった。